

まちにとびだせ!

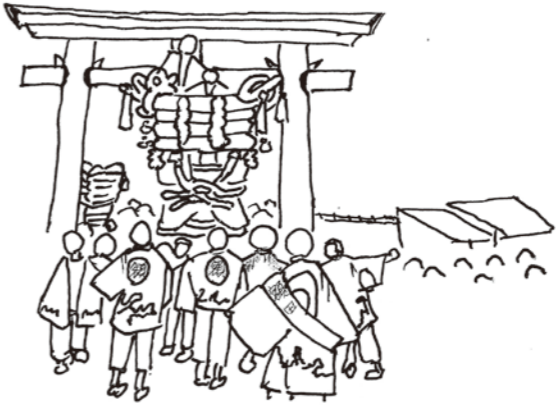
東大阪 いっとこMAP



校岡～額田周辺散策

— 校岡神社秋祭り太鼓台で楽しむ —

延喜式神名帳に官幣大社として名を連ね、太古の聖域に鎮座する神気溢れる河内国一之宮の神社。秋の収穫を祝う秋郷祭では、大中小の太鼓台の太鼓の音に「チョーサジャー」のかけ声を響かせながら賑々しく各地域を巡り順番に宮入りします。その姿は圧巻。秋祭りの日に太鼓台を担ぐ勇姿と熱気にふれながら、暗越奈良街道や東高野街道が交差し、家康や芭蕉の足跡を感じながら校岡から額田周辺を散策してみませんか!



①河内国一ノ宮 校岡神社

中臣・藤原氏の祖神である天兒屋根命、比売御神、経津主命、武甕槌命の四神を祀り、元春日とも呼ばれるように、春日社はここから分霊されています。また、河内国一ノ宮として尊敬されてきました。

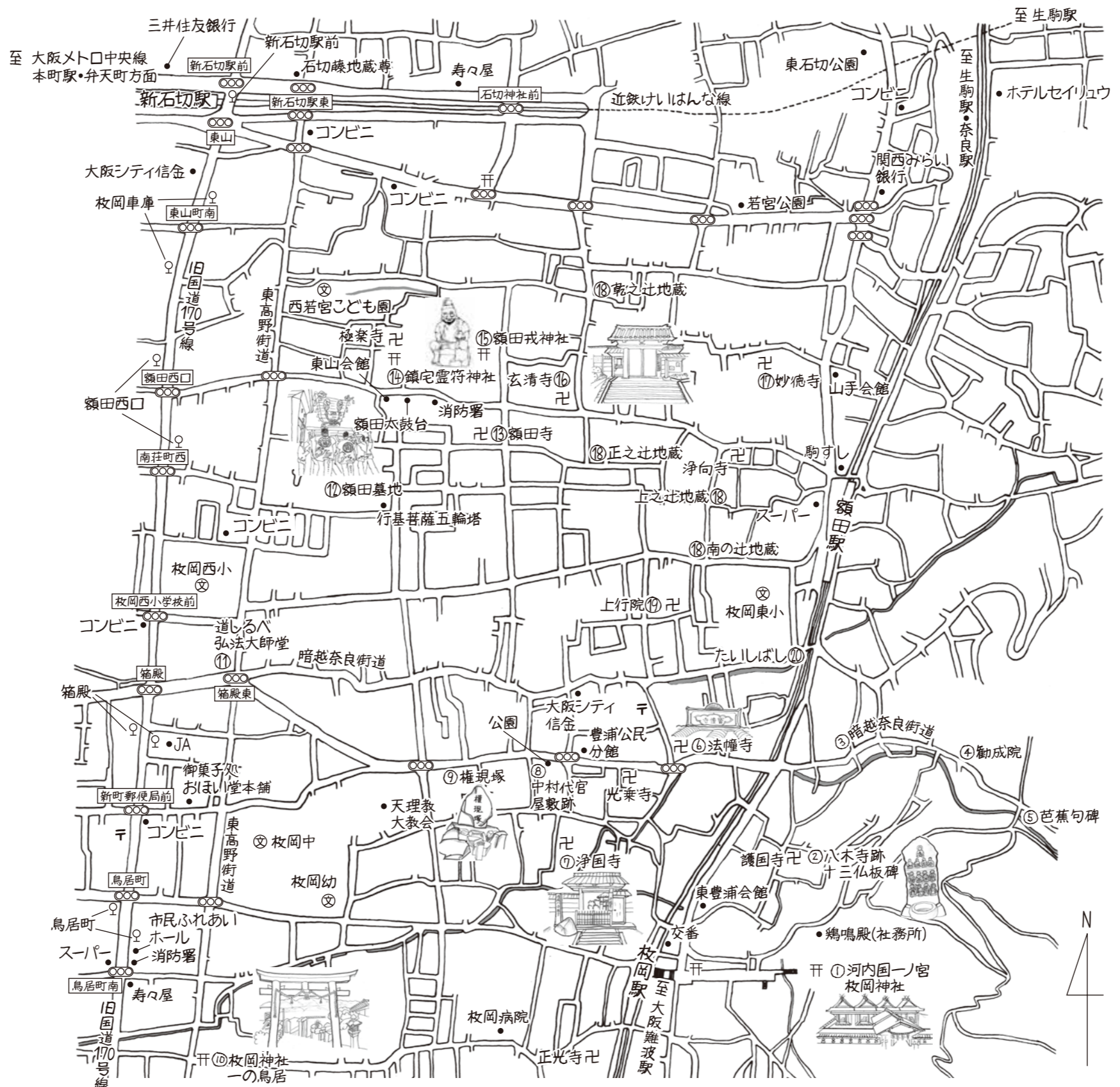
毎年10月14・15日には秋郷祭があり、ふとん太鼓と呼ばれる約2トンの大太鼓台を使って、派手な演出と共に勢いよく担いで宮入ります。この神社では、狛犬の代わりに鹿が鎮座しています。生駒の山の鹿が、奈良に連れて行かれたといわれます。

②八木寺跡十三仏板碑

十三仏は、一石に十三の仏像、あるいは地藏菩薩のまわりに十三の梵字を刻んだものです。紀年、法名、造立願文を示しています。東大阪市内には6基あり、八木寺跡のものは花崗岩製で、下辺には21人の法名と天正五年(1577)丁丑十二月十三日の年号があります。十三仏は初七日から三十三回忌に至る十三の供養仏事に十三の仏菩薩を配当したものです。死者の追善だけでなく、自身の死後の法事を生前にあらかじめ修することもされました。

③暗越奈良街道

日本の道100選に指名されている暗越奈良街道は、奈良時代に平城京と河内・難波を結ぶ最短コースでした。暗峠の名は椋ヶ嶺峠(河内名所図会)、闇上り峠(河内鑑)が訛ったとも、昼でも暗かったためその名がついたともいわれます。旅籠や茶店が建ち並ぶ様子が享和元年(1801)刊行の『河内名所図会』に描かれており、大軌電車開通まで大阪と奈良を結ぶ主要な交通路でした。峠に敷かれた石畳は、こ



の峠を通過する大和郡山藩の行列が、ぬかるむ道に脚をとられないように石を敷いたと伝えられています。

④勸成院

もと三島郡上牧の本澄寺内にありましたが、明治27年(1894)本地に移建されました。日蓮宗、山号は梅龍山、本尊は題目宝塔と釈迦多宝。境内に寛政11年(1799)中村来相が建てた芭蕉の句碑があります。市の指定文化財です。

⑤松尾芭蕉句碑

勸成院には松尾芭蕉が最後の旅の途中、暗峠を越えた際に詠んだ「菊の香にくらがり登る節句かな」の句碑があります。この句碑は寛政11年(1799年)に地元・豊浦の俳人が芭蕉百回忌に建てられました。句碑はその後、山津波で一時行方不明になった時、明治時代に再建されました。それは少し登ったところの枚岡公園内にあります。

⑥宝幢寺

寺の開祖は不詳ですが、江戸時代中期に生駒山宝山寺の湛海律師が再興したと伝えられています。本尊の地藏尊は、行基菩薩が旅の途中、難産で苦しんでいる妻女を救ったという地藏伝承をもつ高さ1.5mもある大きな像です。その両側に安置されている不動明王立像と羅刹門天像は共に湛海の作として知られております。宝幢寺の前の四辻は「地藏辻」と呼ばれていて90度東へ向くと奈良街道、曲がらずそのまま南に行く道は枚岡神社の参拝道。枚岡駅横の大きな道標は、元はこの場所に建てられていました。

⑦浄国寺

山号を清源寺といい融通念仏宗の寺院です。開祖は不詳ですが、境内の南隣にはもと枚岡神社の神宮6カ村の一つであった浄土宗の来迎寺があり、その隠居寺としてこの寺が建てられたといわれています。文禄11年(1698)に融通念仏宗に改められ平野の大念仏寺末となりました。本尊の阿弥陀如来立像は、高さ94.9cm保存修理の結果、光背及び連座は後補ですが藤原様式の洗練された秀作です。